



徳成寺

寺とかわら片版

第211号 2024年7月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

「落語は、人間の業を笑い、演歌は、人間の業を歌う」とは、

故・立川談志師匠の言葉だと俳優の武田鉄也さんが先日教えて

下さいました。業（ごう）と読みます。業とは、何か？別な師に

先日教えて頂いたのですが、「何十年連れ添うた夫婦でも、ふとした

拍子に口喧嘩になり、さっきはごめんと謝れば済むと頭で分かっているも

面と向かって、詫げる事すら出来ない」そこに業が燃えて働いているのだと。

頭では分かっているも、そこに身が動かない。素直になれない。そんな業を

背負う人間を笑うのが落語、歌うのが演歌。なるほど、今聞くと懐かしさを感じ

ずにはられません。若い頃は、まるで聞く耳が開かれてなかっただけだったなあと。

業に喘いでどうしようもない人間をとこの昔にみぬいて下さり、そのままでいいんだよ

と存在の丸ごと全体を受けとめる、人間の業を見捨てないのが仏教です。

発行責任者

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっております、副住職です。

浜ノ町にあるシーサイドボウルが閉店するという事で思い出作りの為に妻と娘を連れて行きました。閉店間近だった事もあり、人も少なく、設備も片付けられていっている店内に足を踏み入れた時は時代の転換点に立ち合ってる気持ちになりました。子供の頃は友達が住んでいたり、市民プールとシーサイドボウルがあったりで浜ノ町はなんとなく楽しい町だというイメージがありました。しかし、友達は県外に出ていき、プールは無くなり、そしてこの度ボウリング場も無くなるとなると、うちの娘はどこでどんな青春を過ごすんだろうか、そんな事を考えながらラストゲームを投げました。雑念があるからでしょうか、最後のゲームになるというのにストライクが全く取れなくて残念でした。写真はRNCのインタビューを受けている時の様子です。

来る10月に中学校の同窓会の案内が来ているのですが、終わった後にここに来る事はないんだなと思うと少し寂しい気持ちになりながらインタビューに応えました。

